

一般社団法人 日本口腔顔面痛学会 2022 年度事業計画書

自 2022 年 9 月 1 日 至 2023 年 8 月 31 日

一般社団法人 日本口腔顔面痛学会は、口腔顔面痛学に関する研究の進展及びその臨床応用についての研究発表、知識の交換、会員の生涯学習の援助並びに会員相互及び内外の関連学会との連携協力を行うことにより口腔顔面痛学の進歩普及を図り、我が国の学術の発展に寄与すると共に国民の健康と福祉の向上に貢献することを目的とする（定款第 3 条）。

これらの遂行のために、2022 年度（2022/9/1～2023/8/31）に以下の事業を実施する。

1. 学術大会の開催

第 27 回学術大会

2022 年 10 月 9 日（日）～10 日（月・祝）の 2 日間、第 27 回一般社団法人日本口腔顔面痛学会学術大会（大会長：大久保昌和）を日本大学松戸歯学部キャンパスにて開催する。メインテーマは「Look into the Future」で、多数のシンポジウム、リフレッシュコースや一般演題発表を予定する。

2. セミナーの開催（セミナー企画運営委員会）

1) 口腔顔面痛診断実習セミナー

【会期】2022 年 9 月 11 日(日)

【開催形式】Web 開催（予定）

2) 口腔顔面痛エキスパートセミナー

【会期】2022 年 12 月 11 日(日)

【開催形式】未定

3) 口腔顔面痛精神医学セミナー

【会期】2023 年 2 月 12 日（日）

【開催形式】現地開催

4) 口腔顔面痛ベーシックセミナー

【会期】2023 年 7 月 1 日（土）～30 日（日）

【開催形式】Web 開催（予定）

5) 口腔顔面痛脳学習キャンプ

【会期】2023 年 8 月頃 2 日間

【会場】松本歯科大学

（神経障害性疼痛関連学会合同シンポジウムは 6. 2）参照）

3. 学会誌（学会誌編集委員会）

第 15 巻を 2022 年 12 月に発刊する。締め切りは 2022 年 9 月 30 日とする。
論文の投稿は随時受け付ける。

4. 専門資格

- 1) 口腔顔面痛専門医、指導医、認定医の認定（専門医等認定委員会）
 - ・指導医、専門医、認定医更新申請に対する審査を行う。
 - ・研究施設新規申請・更新申請に対する審査を行う。
 - ・指導医、専門医、認定医試験を実施する。
- 2) いたみ専門医、いたみ専門医療者認定試験（痛み専門医療者資格審査委員会、認定試験診査委員会）
 1. いたみ専門医、いたみ専門医療者資格を本学会会員に広報し、受験者数の増加を図る。
News Letter での紹介、認定制度のご案内のプレゼンのホームページへの掲載を検討する。
 2. いたみ専門医、いたみ専門医療者の試験資格審査を行う。

5. 研究の奨励および表彰

- 1) 研究の奨励（優秀論文賞委員会）

日本口腔顔面痛学会誌（14 巻 1 号）に掲載された論文の中から、優秀論文を一編選出する。優秀論文の筆頭著者に対し、日本口腔顔面痛学会総会・学術大会にて記念品と楯を贈呈する。ただし、当該年度に優秀と認められる論文が見当たらない場合は、選出しない場合もある。
- 2) 優秀ポスター賞（ポスター賞推薦委員会）

第 27 回一般社団法人日本口腔顔面痛学会学術大会において優秀ポスター賞を選定する。
- 3) その他

6. 国内交流事業

- 1) 国内疼痛系学会との交流（理事長）

痛みに関する課題の共有と方策について協議する目的で、日本疼痛学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、日本腰痛学会、日本運動器疼痛学会、日本ペインリハビリテーション学会、日本頭痛学会と設立した「日本痛み関連学会連合」を通じて、国内の疼痛団体と交流する。
- 2) 神経障害性疼痛関連学会合同シンポジウム（セミナー企画運営委員会）

神経障害性疼痛関連歯科学会合同シンポジウムを開催する。
【会期】2023 年 3 月 12 日（日）
【開催形式】Web 開催
日本口腔外科学会、日本歯科麻酔学会、日本歯科薬物療法学会、口腔顔面神経機能学会、日本歯科心身医学会と共催予定
- 3) 渉外活動（渉外委員会）

「慢性疼痛診療システムの均てん化と痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究」への参画として、8 地区から選出した委員を中心に、セミナー情報の収集ならびに当研究での講演などを行う。

関連組織との連携：日本いたみ財団の事業の一つである、痛みの電話相談窓口との連携に向けた取り組みを行う。

4) その他（理事長）

本学会の目的達成のため、国・官公庁、国内外の医歯学・医療関係団体との協力、協議を行う。

- ・日本歯科医学会
- ・日本歯学系学会協議会
- ・日本歯科医学会連合
- ・日本痛み関連学会連合 他

7. 国際交流事業（国際交流委員会）

- 1) 国際疼痛学会 (International Association for the study of Pain: IASP) および Special Interest Group of Orofacial Pain and Headache (SIG of OFPH)との交流。
- 2) アメリカ口腔顔面痛学会 (American Academy of Orofacial Pain: AAOP) との交流。
- 3) アジア頭蓋下顎機能障害学会 (Asian Academy of Orofacial Pain and Temporomandibular Disorders: AAOT) との交流。
- 4) 国際歯科研究学会 (International Association for Dental Research) の神経科学グループ (Neuroscience Group) および International Network for Orofacial Pain and Related Disorders Methodology (INFORM)との交流。
- 5) その他

8. 歯科医療の向上のための事業

- 1) 診療ガイドライン（ガイドライン作成委員会）
非歯原性歯痛診療ガイドライン改訂版の改訂
ガイドライン呼称の見直し
改訂準備として、現在必要と思われる OFP の CQ の収集
- 2) 口腔顔面痛教育シラバス（シラバス委員会、用語検討委員会）
シラバス委員会が所管する審議事項が生じた場合、理事会の要請により委員会を招集する。
米国において Orofacial Pain が 12 番目の Dental Specialty に認定されたことから、我が国における口腔顔面痛学教育の充実と口腔顔面痛専門医の歯科専門医機構による認定に向けて、引き続き世界の卒前・卒後教育の動向について調査研究する。
- 3) 社会保険（医療保険委員会）
令和 6 年度診療報酬改定①②③に向けての調査、準備を行う。
 1. 医療保険関連事業：報告書作成時『口腔顔面痛に対する運動療法』の英文作成
 2. 医療保険関連事業：報告書作成時『口腔顔面痛における定量的な咀嚼筋触診法の確立』の英文作成
 3. 医療保険関連事業：報告書作成時『三叉神経ニューロパチーに対する光線療法についての調査研究』の英文作成
- 4) 医療問題関連の活動（理事長）

種々の医療問題に関する見解の取りまとめと解決を行う。

5) ICT の導入

1. 学術委員会 e-learning 検討部会

IASP 教育システム開発プロジェクトチームとの連携事業の継続および ICT 委員会と連携し e-learning 事業（アプリのコンテンツ作成など）を継続する。

2. ICT 活用推進委員会

- ・作製したアプリを広報する。
- ・専門医・会員情報を管理する。アプリを利用したセミナーを準備する。
- ・Virtual Patients の充実を図る。E-Learning を勧める。
- ・学術大会のセミナーを準備する。オンラインシステムの販促を進める。

3. IASP 教育システム開発プロジェクトチーム

- ・コメディカルコンテンツ（入門編）の開発。
- ・「アプリで学ぶ口腔顔面痛」の正式リリース。
- ・広報活動（第 27 回学術大会における展示ブースの設置、セミナー開催、プレスリリース）。

4. 日本歯科医学会プロジェクト研究チーム

- ・令和 4 年度日本歯科医学会研究費公募申請を行い、研究題名「口腔顔面痛診断補助ツールアプリケーションの開発とその臨床応用上での法的な整理」として採択された（日本歯科医学会プロジェクト研究 2022-B-5）。
- ・承認予算は、700 万円（令和 4 年 260 万円、令和 5 年 440 万円）
- ・メンバー：研究代表者：松香芳三理事長
研究分担者：臼田 頌、村岡 渡、小見山道、佐々木啓一、西須大徳、野間 昇、島田明子
- ・研究計画の詳細を決定し、アプリケーションの開発と法的な問題点の抽出を行う。

6) 臨床研究（学術委員会臨床研究検討部会）

学会として以下の臨床研究を検討・実施する。

1. 口腔顔面痛疾患のWEBによる臨床統計
2. 口腔顔面痛患者の実態調査と慢性難治性口腔顔面痛の多面的病態評価における多機関調査

7) その他

1. 学術委員会 CBT 部会

- ・口腔顔面領域における各疾患の認知行動特性について検討する
- ・認知行動療法の治療補助ツールを作成して、口腔顔面痛認知行動療法セミナーの開催を目指す

9. 広報事業（広報委員会）

- 1) ホームページの管理業務における運営体制の検討
- 2) ホームページ全面改訂に向けての検討（アプリとの連携を含む）

- 3) ホームページおよびメーリングリスト、ニュースレターでの情報開示
- 4) 医療関係者および国民に対して、当学会とその医療内容に関する情報を広く周知させるための広報
- 5) 非歯原性歯痛と特発性口腔顔面痛の医師・歯科医師および国民への積極的な広報
- 6) IASP 教育プロジェクトの広報
- 7) その他

10. コンプライアンス・ガバナンス

1) コンプライアンス順守（倫理委員会）

本学会が広くステークホルダー（患者、医療従事者、研究者、会員および社会）に貢献すべき重大な責務を負っていることを認識し、コンプライアンス順守活動を積極的に行う。

2) 会員の倫理向上（倫理委員会）

倫理委員会が所管する審議事項が生じた場合、理事会の要請により委員会を招集する。

3) 会員の利益相反（利益相反委員会）

会員の利益相反開示が適切に行われる活動を行う。

4) 個人情報の管理（理事長）

学会の収集した個人情報を適切に取り扱う活動を行う。

5) 規定の整備・新規作成（規程検討委員会）

必要に応じて、各委員会から提案された各種規程の整備、および新規作成を行う。

6) その他

11. 会議の開催（総務担当理事）

理事会 2 回、社員総会 1 回を行う。必要に応じて臨時理事会、臨時社員総会を行う。

- ・2022 年 11 月 1 日：第 1 回定時理事会（WEB）を開催する。
- ・2022 年 11 月 18 日：第 1 回定時評議員会（社員総会）を開催する。

12. 社員選挙及び理事選挙の開催（選挙管理委員会）

評議員選挙を行い、2023 年 7 月末をめどに当選者（評議員）を確定する。

理事選挙を行い、2023 年 10 月初旬をめどに当選者（選挙理事）を確定する。

13. 本学会の社会的地位向上のための活動

1) 広告のできる専門医（理事長）

広告のできる専門医の資格取得のため、会員の増加を図る。

2) 日本歯科医学会専門分科会（理事長）

専門分科会加入を申請する。

3) 日本歯科専門医機構（専門医機構申請準備委員会）

同機構について情報収集をした。

13. 会員の顕彰

1) 名誉会員の推挙（理事長）

本学会の発展のために特に顕著な功績のあった会員の検討を行う。

2) 功労会員の推挙（学会特別功労賞推薦委員会）

これまでに退職され、本学会に多くの貢献をなされた会員の中から功労会員を推戴する。

14. その他

精密触覚機能検査研修会に関する事業を行う。

歯科衛生士の入会対応について検討する。

その他、目的達成のために必要と認められる事業を行う。

以上